総合政策　第 20 巻（2019）pp. 1-11
Journal of Policy Studies

宮沢賢治が描いた架空の島「三稜島」の手書き地形図

米地　文夫＊

要　　旨　筆者は宮沢賢治による手書きの地形図が、賢治の詩「島祠」の舞台である三稜島、三稜石から連想された架空の島の地形図と推定した。原稿にはアイルランド風の島というメモが付され、島は詩人が人魚の妻とかつて暮らした場所といい、モデルは浅虫沖の湯の島である。賢治は大畠ヤス子という女性を愛し人魚と呼んだ。なぜなら彼女は手が荒れていて鱗のようだったからである。「島祠」はアイルランドの人魚伝説と賢治自身の恋とを重ねた詩である。当時の日本文壇のアイルランド熱を受けているが、この島のユニークな点は、その島を現実には存在しない「水銀の海に浮かぶ硅化園」という特異な設定にし、しかも始原の世界とした点である。実験室の容器の中の世界と、地球の遠い過去に、賢治は自らの失恋の思い出を封じ、化学、地質、地形、地誌、植物、民俗などの知識と詩的イメージとが生んだ特異な詩としたのである。

キーワード　宮沢賢治、手書き地形図、詩「島祠」、三稜石、アイルランド、人魚

1.　はじめに

宮沢賢治（1896-1933）は地図が好きであり、地形図を使って仕事もし、作品にも地図に関わるものが多い。例えば、童話「朝に就ての童話的構図」は、蟻の兵隊が蕈の生えたのを新しい山ができたと思い、情報を陸地測量部に知らせようとする話であり、童話「銀河鉄道の夜」では星を三角測量の測標に、星座早見盤を天上の地図に見立て、測量旗も登場する。

本稿ではその賢治が作成したおそらく唯一の手書き地形図の描かれた背景の解明を試みた。地形図は詩「島祠」中の三稜島であると推論し、三稜石を鋭くした形態で、特異な時空間に位置する幻想の島であること、さらに賢治の恋と関わることなどを、内容の分析やメモ書きなどの多くの資料の検討により裏付ける。

2.　謎の地形図

(1) 鉛筆書きの図形メモ

賢治の文語詩未定稿「盛岡中学校」下書稿用紙の隅に、鉛筆で描かれた図（第1図、『新校本　宮澤賢治全集　第七巻校異篇』（1996、633ページ）がある。縦4cm、横2cmの小さなこの図は『新校本　宮澤賢治全集　第十四巻　校異篇』（1997、260ページ）の絵画一覧表中には「同心三角図形」と記載してある。これまで、この図を取り上げた論考はなかった。

私はこの手書き図を等高線が記入されている地形図であると推定した。陸地測量部五万分の一地形図を使って地形、地質、土壌の調査を行う一方、測量の手伝いも行った賢治[1] には、イメージを等高線入りの地形図に表現することは容易であったと考えられるからである。

したがってこの手書き図を地形図とすれば、賢

＊ハーナムキヤ景観研究所　〒025−0063　岩手県花巻市下小舟渡 237-3

治の唯一の自作地形図の発見ということになる。

従来、賢治が描いた地図としては、陸測五万分の一地形図を基図とし、その上に地質や土壌の分布を記入した図や、簡略な道案内図などがあるのみで、等高線を記入した地形図を自ら描いたものは知られていなかった。

第1図　賢治がメモした地図
『新校本　宮澤賢治全集　第七巻　校異篇』より

(2) 賢治作品中の三角形の山や島

この賢治自作の地形図は、賢治作品に登場する三角形の山か島を描いたものと考えられるので、その箇所を特定するため、賢治作品中の「三角山」や「三角やま」という記載のある童話1編、詩3編、「三角島」のある詩1編を検討した。

まず、童話「税務署長の冒険」中の「三角山」は、税務署長が「風のやうに三角山のてっぺんから小屋をめがけてかけおりた。」とあるので高い山ではなく、等高線の多いこの図の山とは思えない。

詩「運転手」の「三角山」は、手書き地形図の形とは異なる。

詩「第四梯形」にも「三角山はひかりにかすれ」とある。この詩は盛岡西方の七つ森を詠ったもので「三角山」は七丘陵の一つ三角(みかど)森とみられる。

同山は見立森と鉢森とを結ぶ稜線上にあり、鞍部からの比高は約50mである。賢治が用いた明治25年発行の陸測2万5千分の一地形図「厨川村」図幅には三角森の名はなく、等高線は丸みを帯びた曲線で描かれており、賢治がわざわざ鋭い稜線を示す別な地図を描いたとは思えない。

残る作品は『春と修羅　第二集』中の〔つめたい海の水銀が〕と始まる無題の詩の下書稿「島祠」にある島である。下書稿(一)には三角島とあり、推敲した下書稿(二)では三稜島となる（『新校本宮澤賢治全集第三巻　校異篇』、1996)。

下書稿(一)の三角島は陸奥湾に実在する浅虫温泉沖の無人島「湯の島」であり、形態はこの図とは合わない。したがって最後に残った「島祠」下書稿(二)中の幻想の島・三稜島が、この図と関わる可能性が高いということになる。すなわち、当初は実在の湯の島で、それが幻想の三稜島に変わり、この手書き図の島となったのである。

3.　賢治の詩「島祠」の三稜島

(1) 詩「島祠」とは

詩「島祠」は推敲したのち、〔つめたい海の水銀が〕と始まる無題の詩に変るので、これが一般には定稿とされている。しかし推敲前の先駆形には「島祠」という題名が付されており、これも一種の完成形といってよい。「島祠」下書稿(二)は次の通りである。なお、以下、単に「島祠」と記す場合にはこの下書稿(二)を指す。

島祠　　一九二四、五、二三
うす日の底の三稜島は
樹でいっぱいに飾られる
パリスグリンの色丹松や緑礬いろのとゞまつねずこ
また水際には新たな銅で被はれた
巨きな枯れたいたやもあって
凪のながれとねむりによって
みなさわやかに酸化されまた還元される

　　それは地球の気層の奥の
　　ひとつの硅化園（シリカガーデン）である
海はもとより水銀で
たくさんのかゞやかな鉄針は
水平線に並行にうかび
ことにも繁く島の左右にあつまれば
鷗の声もなかばは暗む
　　そこが島でもなかったとき
　　そこが陸でもなかったとき
鱗をつけたやさしい妻と
かつてあすこにわたくしは居た

（2）謎の架空地名「三稜島」

原（2013）は「三稜島」の名はプリズムから想を得たものでミツカド島か、と記した。プリズムは5面の三角柱で、屋根型の島ということになる。プリズムは三稜鏡とも呼ばれるが、その場合の読みはサンリョウキョウである。

地学、特に岩石に強い関心を持っていた賢治は、三稜石（サンリョウセキ）からの造語として「三稜島」（サンリョウトウ）を考えたとみられる。

賢治の創った架空地名には地理学や地学と関連するものが多く、地学者名からゲーキー湾（童話「風野又三郎」）、地質年代名からプリオシン海岸（童話「銀河鉄道の夜」）、岩石名から蛇紋山地（詩「原体剣舞連」）などがある。それは賢治が盛岡高等農林学校で農芸化学を専攻し、特に土壌を研究対象とし、関連する地形地質に強い関心を持っていたためであり、「三稜島」もその一つである。

三稜石は砂漠のほか、海岸砂丘などでも形成される。賢治は「島祠」を書く前日に苫小牧で海岸砂丘を見て、詩「海鳴り」に「砂丘のなつかしさ　ややはらかさ／まるでそれはひとりの處女のやうだ」と詠った。この描写は詩「島祠」のエロチシズムに繋がるので、三稜島発想のひとつのモチベーションになったのであろう。

「島祠」には、賢治が引率した1924年5月の花巻農学校北海道修学旅行の最終23日の日付がある。なお賢治の詩は最初の発想時の日付を、推敲後の詩にも引き継がせるので、「島祠」の日付も同様である。

この日、一行は早朝、青函連絡船で青森に着き、東北本線に乗り換えて、花巻には午後2時近くに帰着した。最初の原稿下書稿(一)では、島の名は「三角島」である。その冒頭５行は次のとおりである。

さまざまの鮮らしい北種の木々が
みなさわやかに息づいて
始原の春の三角島を飾ってゐる
　…それは地球の気層の底の
　　ひとつのなつかしい硅化園（シリカガーデン）である…

浜垣（2006）が、この三角島を青森の浅虫沖の湯の島としているのは妥当である。たしかに最初の下書きでは三角形の湯の島を指していたのであろう。詩「島祠」に触れた先行論文等には、匿名のα（1971）による短いコラムと、秋枝（1998）の論考とがある。前者は浅虫の湯の島の写真を紹介しているのみである。秋枝は三稜島を北の海に浮かぶ楽園の島と解し、賢治の心象が真に解放されたことを詠う詩と捉えた。しかしながら私は本稿において、「島祠」は逆に、賢治が自らの心象を架空の島に封じ込めた作品であることを解き明かしたい。

湯の島は浅虫温泉からは北西に約1km沖にあり、標高は132mで、長径約600m、短径約300mの楕円形の無人島である。島の西海岸は海蝕崖、ほかはほとんどクロマツやケヤキなど森林に覆われる。東南岸に弁財天を祀る祠があり、赤い鳥居が立つ。この島は横からみると見事な三角形で浅虫温泉からの展望の中心である。例えば、有島武郎も、賢治がこの詩を書く8年前に、浅虫温泉からのスケッチ（第2図）を日記に載せている。

しかし湯の島の平面形は楕円形であり、問題の手書き地形図の島の三角形とは異なる。詩は、改稿を重ねるうちに現実の湯の島とは異なる幻想的な島と変わっていった結果、三稜石に似た形で、

第２図　有島武郎による湯の島のスケッチ
1916年10月17日（『有島武郎全集　第12巻』筑摩書房）

しかもより鋭い稜線を持つ島に変わったのである。

4.　アイルランド風の三稜島と人魚

(1) アイルランド風の三稜島

「島祠」の書かれた紙葉の左下隅に、この詩がアイルランドを連想して創られたことを示す次のようなメモが載っている[2)]（『新校本宮澤賢治全集第三巻校異篇』、1996）。

それは一つのアイルランド風の島で
渚
過去の仏の　　記念碑
　　＼
竜王の　　／
　　を見ることあり

アイルランドの竜に関する伝説中、最も有名なものは「トリスタンとイゾルデ」で、騎士トリスタンがアイルランドの凶暴な竜を退治し、王女イゾルデと結ばれる物語は西欧に流布し、ワーグナーのオペラなど、後世多様な形で広まった。

アイルランド自体、島ではあるが、面積はほぼ北海道と同じほどの大きさで、島という感じではなく、賢治のメモの島はアイルランド沿岸の小島と思われる。その小島の一つに、竜に絡む伝説のあるアイルランド南西部のカヒー島（スカッタリー島）があり、円柱状の記念碑が建つ。一つ目で熱と毒気を吐く竜が棲んでいたが、聖シェナーンにより調伏されたという伝説に基づく碑である。

賢治の短編「竜と詩人」では、竜チャーナタが人々に不幸をもたらしたため、竜王に海食洞に封ぜられ、海と陸との境を見張ることになったという。竜王は仏法を守護する。賢治が特に重んじた法華経の会座（えざ）には難陀以下の八大竜王が護法の龍神として列する。賢治の詩にも「難陀の家紋」が登場するので竜王は難陀であろう。

メモに「仏の一記念碑」とあるのは、カヒー島のキリスト教伝説の記念碑を仏教世界に置き換えようとしたことを示している。またアイルランド南西部のスケリッグ・マイケル島は見事な三角形を成す急峻な岩山からなる島で、修道院があり、賢治はこの島の写真か絵をみてアイルランド風の島としたのかもしれない。カヒー島の伝説と記念碑、スケリッグ・マイケル島の三角形を成す峻険な形態、を合わせたのであろう。砂丘はアイルランドにもあり、duneの語源はアイルランド由来という説もある[3)]。

(2) 南サハリン～北海道への投影

賢治がどこをアイルランドに見立てたのかを考えると、彼の旅した最北端の地域の南サハリンがまず挙げられる。ヨーロッパ的文化と土着の人々の文化の交錯する異界の地であった。彼は、アイルランドの妖精とサハリンのコロボックルとを結びつけた幻想を詩にしている（米地、2014）。

「島祠」に登場する色丹松は、この前年の南サハリンへの旅行の帰途の詩「樺太鐵道」にも詠われている。「いちめんいちめん海蒼のチモシイ／めぐるものは神経質の色丹松（ラーチ）」、また、この詩には「おお満艦飾のこのえぞにふの花／月光いろのかんざしは／すなほなコロボックルのです」ともある。

とどまつはサハリンから北海道にかけて見られ、童話「氷河鼠の毛皮」では、ベーリング行列車がイーハトヴからしばらく行ったところの描写には、「唐檜（たうひ）やとゞ松がまつ黒に立ってちらちら窓を過ぎて行きます。」とある。

(3) 東北地方への投影

アイルランドへの見立ては、さらに本州にまで拡がる。東北地方の樹木からはネズコを採り、赤

い色の「いたや」カエデも入れている、すなわち、賢治は南サハリン、北海道、東北、と当時の日本北方地域をアイルランドに見立てたのである。

アイルランドは、その北方風土や農林水産業地域であること、域外からの侵略や支配に抵抗した歴史を持つこと、純朴で忍耐強い住民の気風、など東北地方に似た地域性を持つ。

このことを指摘し、宮沢賢治を想起したのは鈴木建三（1980）である。彼はアイルランドの田舎町を訪ねる旅をしたとき、イエイツをはじめとする同国の文学者たちのアイルランド的な想像力は、アイルランドの田舎の「貧しく、停滞的な」、それゆえに逆に「革命的エネルギーを内包させ」ていることに支えられていると感じたという。それは戦前の日本、特に東北を連想し、「日本のマージナル地域、呪術とフォークロアの世界であった東北が、大正、昭和のヨーロッパ的なものの衝撃のなかで産みだした、言葉の異常なほどの天才宮澤賢治」の詩をしきりに思いだしていたという。

私もアイルランドの旅で賢治を想った体験から、この鈴木の記述に同感する。ただし東北を日本のマージナルな地域、とのみ語っている点には不満がある。東北はアイルランドと同様、古くはエミシの日高見国にはじまる独自の地域であった点を私は強調したい。賢治は日高見という言葉が好きであったし、イーハトーヴもまた心象中のアイルランド的独立国であった。

日本文壇に起こった大正時代のアイルランド熱を支えたのは先駆者山宮允（さんぐうまこと）（1890-1967）の訳業であった。山宮の父咸一は旧米沢藩士のち山形県職員で、允は父の任地鶴岡で育った。山宮がそれまで殆ど取り上げられていなかったアイルランド文学をテーマに選んだのは東北地方とアイルランドとの間に相通ずるものがあったからであろうか。

賢治と同時代の丸山薫（1927）[4)]の詩「汽車にのって」は曲を付して、広く歌われたほど人々に愛唱された。その最初の部分を掲げる。

汽車に乗って　　丸山薫
あいるらんどのやうな田舎（ゐなか）へ行かう
ひとびとが祭の日傘をくるくるまはし
日が照りながら雨のふる
あいるらんどのやうな田舎へ行かう（後略）

この詩の18年後、戦災で焼け出された丸山は、山形県在住の詩人日塔聡と那須貞太郎とを頼って月山山麓の宿坊の村・岩根沢に疎開し、臨時教員として国民学校の教壇に立った。幼少期に国内外の各地を転居し、豊橋市で少年期、東京で青年期を過ごした丸山には初めての田舎暮らしであった。

彼にとり東北の山村がアイルランドのような田舎になった。岩根沢で創った詩「青い黒板」はアイルランドのような田舎を岩根沢で見出したことを示している。「鉛筆が買えなくなっても／指で書くからいい／ノートブックがなくても／空に書くからいい（中略）空の黒板はひろくてたのしい（中略）毎日雲がまっさおに／それをぬぐってくれる」

5.　人魚の妻への想い

（1）人魚の妻とは誰か

明治末から大正にかけて人魚は知識人のイメージする美の典型の一つで、1908年『朝日新聞』連載の夏目漱石の「三四郎」には、三四郎とヒロインが画帖の人魚の絵に見入ってマーメイドとささやく場面がある。賢治も童話「銀河鉄道の夜」や詩「発動機船」で、アンデルゼン（賢治はドイツ語読みを用いた）の人魚姫の物語を連想している。

「島祠」の中の「鱗をつけたやさしい妻」とは、人魚を妻としたという謎のような話である。前掲メモの「アイルランド風の島」が謎を解く鍵で、アイルランドにはメロウという人魚が住み、人間との結婚の民話もあることに注目したい。

その一つ、アイルランドの作家 W.B. イエイツの編んだ『アイルランドの妖精譚』（Yeats、1888・1891、井村訳、1971）の中の「ゴルラスの婦人」、（The Lady of Gollerus）のアイルランドの人魚メロウMerrowが人間の妻となった話を下敷きに、自らの恋愛を詠ったものが「島祠」であろう。

イエイツとともに日本でよく読まれたアイルランド出身の作家にオスカー・ワイルドがいる。彼は多くの幻想的な作品、「サロメ」や「ドリアン・グレイの肖像」などの作品で知られるが、人魚に関わるものとしては、彼の第2童話集『ザクロの家』に収められた「漁師とその魂」（The Fisherman and His Soul ）があり（阿部訳、1998）、漁師と美しい人魚との悲恋の物語（星野、2013）である。

賢治は、日本でもよく知られていたイエイツとオスカー・ワイルド[5]のそれぞれの人魚の物語を読んで「島祠」の着想を得たのであろう。

従来は「鱗をつけたやさしい妻」とは、生涯独身だった賢治の全くの幻想、すなわちアンデルセンなどの人魚物語からの空想とみられていた。しかし私は「島祠」の人魚を佐藤（1981、1984）が見出した賢治の恋人大畠ヤス子を指すと推論した。佐藤は、賢治には1921年頃、周囲が結婚を予想したほどの親しい仲の恋人がおり、大畠ヤス（通称ヤス子）がその人で、賢治の詩「春光呪詛」に「髪が黒くてながく」「頬がうすあかく瞳の茶いろ」とある女性と述べた。

当時、賢治は満25歳の稗貫農学校教師、ヤス子は満21歳の花城小学校代用教員であった。二人の仲はきわめて親密で、泊まりがけの逢引きもあったといわれ、詩のなかの妻という表現もあながち誇張ではないと考えられる。文語詩「なべてはしけく　よそほひて」が逢引きの翌朝のヤス子を詠ったと推定したのは澤口（2010）である。そしてこの詩の先駆形に「なべての指は荒みたり」とあるのに注目し、家業の蕎麦屋を手伝っていたため、ヤス子の指は荒れていたと言う。

〔なべてはしけく　よそほひて〕下書稿
フェルトの草履　美しくして
なべての指は　荒みたり
さもいたいけの　をみなごの
オペラバッグを　振れるあり
暁惑ふ　改札を
ならび過ぐると　おのおのに
人なきホーム　陸の橋
まなこさびしく　ふりかえる

私は、ヤス子のひび割れなどで荒れた指を賢治が愛おしく思い、人魚の鱗に喩えたと推定した。彼女の髪が長いのも人魚に相応しい。茶色の瞳はエキゾチックで、この人魚は日本の伝説のそれではなく、西洋の民話の人魚を連想させる。

ヤス子自身は荒れた指を恥じていたらしく、写真では指を隠すような手の組み方をしている。しかし、賢治は働き者の彼女をいつくしみ、そのひび割れの手の痛々しさへの同情が彼女への恋情をさらに高め、このヤス子を「島祠」の「鱗をつけたやさしい妻」・人魚に見立てたのであろう。

「島祠」の題は、小川未明の「赤い蝋燭と人魚」（1921年）の、海辺のお宮に捨てられた人魚の赤子の物語にも、影響を受けたものかもしれない。

（2）波間に消えた人魚

「鱗をつけたやさしい妻」ヤス子はアンデルセンの人魚姫のように儚い運命を辿った。賢治との恋は、1922年11月27日の賢治の妹トシの死去をさかいに熱愛の時期は過ぎ、翌1923年夏ないしは秋に恋は終わったらしい。

1924年5月にヤス子は結婚し、医師の夫とともに渡米した。おそらく賢治が彼女の渡航を知り、月末に「島祠」の下書き稿（一）を書き、日付「一九二四、五、二三」を付したのである。下書き稿（二）はさらに後、1926年ころ、彼女の乗った船が海の彼方に去る情景と人魚が波の間に消えるイメージとを重ねて創ったものと考えられる。

「或る農学生の日誌」で陸奥湾の彼方にアメリカを連想したのは、賢治自身だったのである。

その後については澤口（2011、2014）がヤス子の姪からの聞き取りなどに基づき詳らかにした。ヤス子は、男児をもうけたが、1927年4月23日病没、シカゴの教会で葬儀が営まれたという。男児もその二年後に死去したそうである。

三稜島の地図が描かれたのは、賢治が文語詩を描き始めた 1928年8月以降であることは間違いない。賢治は終生、彼女を想っていたのである。そ

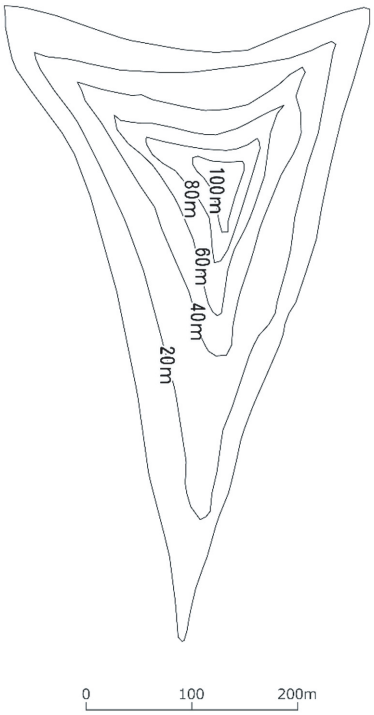
して二人の熱愛の思い出を封じ込めた島の地図を描いてみたのであった。

6.　三稜島の形態と時空間の特異性

（1）三稜島図の等高線設定

文語詩未定稿の「盛岡中学校」下書稿用紙の隅に鉛筆で描かれた図（第1図）が手書き地形図で、詩「島祠」の三稜島であるとの推定に基づき、「島祠」の発想の原点である三角島、すなわち湯の島の大きさや高度を参照して等高線を入れて、より具体的な地形図化を試みた。

最も外側の線を海岸線（海抜0m）とし、そのほかは、陸測五万分の一地形図の等高線に準じて、

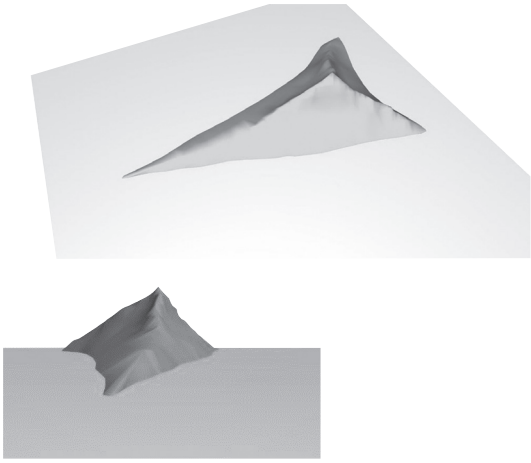


第3図　賢治原図（第1図）から等高線を抜きだし、推定の海抜高度を記入した図

20m ごとの等高線とし、第３図を作成した。

島の最高地点は、等高線の数から湯の島よりはやや低くなり、海抜 120m となった

第4図は第3図を縮小し、実際にはどう見えるかをイメージできるようにした三次元図である。



第4図　三次元像とした三稜島

（2）硅化園の中の三稜島

「島祠」の下書き稿(一)では、現実の景観として「針をたくさん並べたやうに光って」いた海が、次の下書き稿(二)においては「海はもとより水銀で／たくさんのかゞやかな鉄針は／水平線に並行にうかび」と幻想的な描写に変わる。

硅化園（シリカガーデン）はいわゆるケミカルガーデンで、板谷（1979、1988）が詳説している。硅酸ナトリウム液（水ガラス）に同量の水を加えた液に、様々な塩類の結晶を投入すると、器の底に沈殿したそれらが硅質に変化し、上方に草木が成長するように立ち上がり、樹園風になるものを指す。

すなわち、下書き稿(一)は修学旅行引率の帰途に見た現実の景観の描写であるが、下書き稿(二)は非現実的な幻想的世界に変わるのである。下書き稿(二)では「凪のながれとねむりによって／みなさわやかに酸化されまた還元される／それは地球の気層の奥の／ひとつの硅化園である」と空間を詠う。

また「凪のながれとねむりによって／みなさわやかに酸化されまた還元され」と凪（風の異体字）が酸化や還元を繰り返した長い時間を詠っている。

金属樹の析出の化学実験は学習者の関心を集めるが、ケミカルガーデンは、様々な塩類が色とり

どりの樹種のように林立するので、特に印象的である。そこで湯の島を覆う樹林を、硅化した結晶の混合林に喩え、「パリスグリンの色丹松や緑礬いろのとゞまつねずこ、さらに銅で被われたいたや、」と詠ったのである。

板谷（1979）は「緑礬いろのとゞまつねずこ」は、緑礬すなわち硫酸第一鉄の結晶を水ガラスに撒くと、緑色の海草のようなものが伸びてきて林のようになると説明する。その他の木々も、多種の塩類の結晶なのである。賢治の心象中では海面は液体面ではなく、固体の面と化している。そして気層[6)]もコロイダルな液体になるのである。

手書き地形図を片隅に書き込んだ用紙には、文語詩「盛岡中学校」が書かれており、賢治在学後間もない 1914年初冬の短歌に「顔あかき／港先生／このごろは／エーテルのまこと冴えて来しかな」（歌稿 B225）とあり、当時の思い出を描いた詩「盛岡中学校」には「一鐘のラッパが鳴りて／急ぎ行く港先生」と教師の名が出てくる。

嘱託であった港純治先生は化学と数学の担当であったので、賢治は「島祠」のケミカルガーデンを想起し、地図を欄外に描いたのであろう。

「島祠」の下書稿（一）には「始原の春の三角島」とあるが、始原代すなわち、まだ生物は海中にのみ棲み、陸上には現れていない時代を想い、「ひとつのなつかしい硅化園（シリカガーデン）」とそれを懐かしんでいる。それは下書稿（二）では「そこが島でもなかったとき／そこが陸でもなかったとき」とあることに繋がる。賢治は三稜島を太古の海底とイメージしたのである。

（3）三稜島の不思議な景観

架空の地域を舞台とする作品を創る場合、作家はしばしば自作の舞台となる地域の地図を描く。スティーヴンソンの宝島が有名であるが、日本でも井上ひさしは『吉里吉里人』の舞台である吉里吉里国の地図を描いている（米地、2011）。賢治の三稜島の手書き地形図も同様の試みであった。

その賢治の描いた地形図の三稜島はきわめてユニークで、鋭い稜線をもつ不思議な形態であり、現実には存在しない「水銀の海に浮かぶ硅化園」という特異な環境で、しかも始原の世界とした。

一方、結晶の作り出す植生については、賢治の憧れていた北方の樹木と、地元東北の樹木とに見立てており、この島がイーハトーヴのメタモルフォーゼであることを示している。

手書き地形図の示す急峻な地形は、その山地には住みにくいが、人魚の妻と暮らすのは海岸であろうから支障はないだろう。繊細で薄いガラス細工のような島の形は、賢治と恋人ヤス子との、はかなく毀れた愛を表すものかもしれない。

二人の逢引の場は、知人の目に触れない隣県青森の浅虫温泉で、沖に浮かぶ湯の島は、二人にとり懐かしい景観だったと推定される。恋の終わりから一年半後、再び湯の島を目にした感慨を、幻想的景観の詩に変貌させたのであろう。

7.　おわりに

「島祠」はさらに推敲され、『春と修羅　第二集』として刊行されるべき詩集草稿の中に、無題の次の詩が入っている。

〔つめたい海の水銀が〕

一九二四、五、二三、

つめたい海の水銀が／無数かゞやく鉄針を
水平線に並行にうかべ
ことにも繁く島の左右に集めれば
島は霞んだ気層の底に
ひとつの硅化花園をつくる
銅緑（カバーグリン）の色丹松や／緑礬いろのとどまつねずこ
また水際には鮮らな銅で被はれた
巨きな枯れたいたやもあって
風のながれとねむりによって
みんないっしょに酸化されまた還元される

実験室の容器の世界は「島祠」と同じであるが、地球の遠い過去に浮かぶ島の幻影は消え、「鱗をつけたやさしい妻」も「私」も削られてしまっている。「風のながれとねむりによってみんないっしょに酸化されまた還元され」てしまったのだろう。三稜島の名すらない。定稿用紙に清書された

この詩のみだったならば、化学が得意な賢治の硅化花園の詩としか受け取られないはずであった。

しかし、さいわいにも別紙に「島祠」が残されていたため、賢治がその硅化花園の世界に人魚のごとき大畠ヤス子との愛の思い出を封じこめたことが知られ、さらに手書き地形図がその島の姿まで示していることがわかったのである。

情緒的な幻想の世界の島を、自然科学的な時空間として描写し、その地形を、等高線を用い数理的操作で表現する、という点もまた、いかにも賢治らしい営為なのである。

化学、地質、地形、地誌、植物、民俗などの知識と詩的イメージとが生んだこの謎に満ちた島・三稜島は、賢治の詩の中でも最も特異な時空間を有し、いわば、楽園[7)]をその中に結晶化して封じ込め、大畠ヤス子との愛の想い出を標本としたのであった。

謝辞

作図など原稿作成には玉山香織さん、高橋恵美子さん、熊谷誠氏に、アイルランド調査ではKazue O' Brien さんに、ご協力をいただいた。

三浦修氏はじめ東北地理学会の方々には、同学会での発表（米地、2015）時や、その前後に、種々ご教示をいただいた。宮澤賢治学会イーハトーブセンターの林修氏には、賢治原稿のチェックについてお世話になった。記して深謝申し上げる。

また私事ではあるが、義母故田中幸子（2015年11月死去）からは丸山薫に関する詳細な情報をいただいた。謝意を表し、本稿を霊前に捧げたい。

【注】

1）『春と修羅　第二集補遺』の中の「若き耕地課技手のIris に対するレシタティヴ」という詩には、賢治自身を技手に仮託して、「尖ったトランシットだの／だんだらのポールをもって」測量を手伝った時のことを詠っている。

2）このメモは、まず横書きでwearyとroseという単語が上下に分けて書かれている。疲れたバラである。同じくアイルランドを連想しつつ南サハリンで賢治が創った「オホーツク挽歌」が、はまばら（ハマナス）の咲く浜辺で妖精と対決して疲れた（米地、2014）ことを想起したと思われる。

3）森鷗外の短編「妄想」（1911）にはこうある。「目前には広々と海が横はつてゐる。／その海から打ち上げられた砂が、小山のやうに盛り上がつて、自然の堤防を形づくつてゐる。アイルランドとスコットランドから起つて、ヨオロッパ一般に行はれるやうになつた dûn（ドユウン）といふ語は、かういふ処を斥（さ）して言ふのである。」

4）丸山薫については松坂（1972）や高沢（2015）および中央公論社（1976）刊行の『日本の詩歌 24』中の丸山薫の項の略伝：大岡信、詩の鑑賞：阪本越郎、年譜：中井清を参照した。また、田中幸子から、彼女の父村山幸吉が西山小学校校長時代、交際があった当時の丸山についての情報を得た。

5）オスカー・ワイルドに賢治が関心を持ち、その著作を読んでいたことは岩手国民高等学校における授業「農民芸術の興隆」の綱要に「Oscar Wilde 生活とは稀有なることである。多くはただ生存が あるばかりである」とあることからもうかがわれる。

6）賢治はしばしば気圏を水圏すなわち海に見立てており、「まばゆい気圏の海のそこ」（詩「春と修羅」）や「気圏ときに海のごときことあり」と始まる無題の詩などがある。

7）隅にこの地図が書き込まれた用紙は、さらに賢治の習字の練習に用いられ、「千里鶯啼緑映紅」という文字が繰り返し描かれている。晩唐の詩人・杜牧の漢詩の七言の最初の句である。原詩は「水村山郭酒旗風」と続く。水郷に山影…、これも楽園であり、賢治の連想とも考えられる。

【文献】

秋枝美保（1998）：詩章『青森挽歌』・童話「サガレンと八月」における心的体験の克服の行方―『春と修羅』第二集前半の下書き稿（一）（二）段階の構想―．論攷宮沢賢治，1 .1-16.

有島武郎（1916）：日記『觀想録』第18巻，有島武郎全集第12巻日記3（1982）所収, 筑摩書房.

α（1971）：風と光．賢治研究, 8. 241.

イエイツ（1888・1891）：復刻 2013, The Book of fairy and

Fork Tales of Ireland. Bounty Books, Dublin.
イエイツ（井村君江訳・1978）：アイルランドの妖精譚，月刊ペン社.
オスカー・ワイルド（阿部知二訳・1998）：幸福の王子，世界名作選2復刻版，新潮社.
板谷英紀（1979）：『賢治博物誌』，れんが書房新社 .
板谷英紀（1988）：『宮沢賢治と化学』，裳華房 .
佐藤勝治（1981）：黒髪長く瞳は茶色　賢治の恋人新発見，くりま3：160-161.
佐藤勝治（1984）：『宮沢賢治・青春の秘唱 ” 冬のスケッチ ” 研究』，十字屋書店 .
澤口たまみ（2010）：『宮澤賢治　愛のうた』，盛岡出版コミュニティー .
澤口たまみ（2011）：宮澤賢治　きみにならびて野にたてば，重松・澤口・小松著『宮澤賢治　雨ニモマケズという祈り』，新潮社 ,104-123.
澤口たまみ（2014）：宮澤賢治『春と修羅』の恋について，続報 . 賢治学 , 1 ：87-100.
鈴木建三（1980）：アイルランド的想像力．世界幻想文学大系　月報 . 国書刊行会, 25. 1-3.
高沢マキ（2015）：丸山薫（上・下），山形新聞　2015年3月8日・15日.
中央公論社（1976）：日本の詩歌24　丸山薫　田中冬二立原道造　田中克己　蔵原伸二郎，同社.
浜垣誠司（2006）：硅化花園の島（1）（2）宮澤賢治の詩の世界 http://www.ihatov.cc/blog/archives/2006/08/,2014年9月17日閲覧 .
原子朗（2013）：『定本宮澤賢治語彙辞典』，筑摩書房.
星野英樹（2013）：オスカー・ワイルドの「漁師とその魂」網にかかったアニマとしての人魚，国際経営・文化研究，17-3. 1-14.
松坂俊夫（1972）：やまがた文学への招待，郁文堂.
森鷗外（1911）：妄想，『三田文学』3～4月号，「日本文学全集4　森鴎外集」筑摩書房（1970）所収.
米地文夫（2011）：井上ひさし作品における架空地域と地図　－吉里吉里国のモデル地域との関係私論－，地図49（1）．17-24.
米地文夫（2014）：啄木は「香り」を詠い，賢治は「匂い」を描く―「はまなす」から拡がる世界―，国際啄木学会盛岡支部会報，23. 6-13.
米地文夫（2015）：宮沢賢治の詩「島祠」における架空地名・三稜島の時空間の謎―人魚の棲むアイルランド風の島と東北地方との関わり― ,季刊地理学（発表要旨）, 67, 149-150.

なお、賢治作品は原則として『新校本 宮澤賢治全集』（筑摩書房）に拠った。

（2018年8月1日原稿提出）
（2018年12月18日受理）

Kenji Miyazawa's handwritten topographical map of Sanryo-toh, a fictitious island

Fumio Yonechi

Abstract

The author discovered a handwritten topographical map by Kenji Miyazawa,and presumed it to be the map of Sanryo-toh.,which is the setting for Kenji Miyazawa's poem "Tohshi" a small island shrine, this is the fictitious name of a place associated with sanryoseki, or dreikanter. Sanryo-toh was noted in the manuscript as an Irish-looking island, the island was set to a place where the poet once lived with his mermaid wife, and the poem was modeled after Yunoshima in Asamushi. Kenji loved a lady named Yasuko Ohata, called "Mermaid", because she had her hands chapped like scales. The poem "Tohshi" was created by superimposing Kenji's feelings of love with Irish mermaid folklore. Reflecting the Japanese literary circle's enthusiasm for Ireland at that time, what is unique about this island is its peculiar setting as a silica garden floating on an ocean of mercury that does not actually exists and also in the Arochaeozoic era. By sealing his feelings of lost love in the world inside a container in a laboratory and a distant past of the earth, Kenji generated this peculiar poem from his knowledge of chemistry, geology, geomorphology, topography, botany and folklore combined with a poetic image.

Key words

Kenji Miyazawa, handwritten topographical map, "Tohshi" a poem, sanryoseki (dreikanter), Ireland, mermaid